

日本語指導が必要な児童・生徒に、 「ことば」を教えるプロフェッショナルとしての技術や方法を学びます。

詳細はコチラ



日本語を母語としない人々を対象とするのが日本語教育です。日本語支援専修では、日本語教育を専門とし、実践できる力を持った小・中学校の教員の養成を目指します。グローバル化した現代社会で日本語の役割は多様化しています。日本語や教育について深い知識と経験を持って、教育現場でその能力を発揮できる人材を育てます。

〔 4年間の学び 〕

日本語支援専修では、日本語教育のための専門的な科目を開講しています。1年次の前期では、「日本語学入門」「言語学入門」「日本語教育学入門」という3つの入門の授業を取ります。1年次の後期から2年次では、さらに実力を磨くための実習形式、演習形式の授業も加わります。「日本語教授法」「年少者日本語教育実習」「日本語学演習」などです。2年次から3年次へ、学年が上がると、これまでの授業では十分にカバーできなかった「言語生活」「日本語史」「日本語と外国語」「年少者日本語教育概説」といった分野も学べます。各分野の研究をさらに深める「日本語学研究」「言語学研究」「日本語教育評価法」、実際に日本語を教える「日本語教育実習」も、3年次にあります。これらを修めて、4年次では主に卒業論文に取り組みます。

取得できる免許

【卒業要件に含める免許状】

小学校教諭二種免許状
中学校教諭二種免許状
(国語もしくは英語)

【取得を優先して薦める免許状】

小学校教諭一種免許状
中学校教諭一種免許状
(中学校二種の教科)

【所定の科目履修で取得可能とする免許状】

高等学校教諭一種免許状
(中学校二種の教科)

◎幼稚園教諭二種免許状

◎特別支援学校教諭二種免許状

◎の免許状は、いずれか1つを選択し取得を目指すことが可能です。



留学生との日常会話のロールプレイ



留学生を相手に日本語教育の実習



クラスメートの発表を聴く

先輩 Voice

学校教員養成課程 義務教育専攻 日本語支援専修 4年
名古屋市立桜台高等学校出身



多様な背景を持つ子どもたちへ 「ことば」の力で可能性を広げる 日本語支援の専門性を生かして

日本語を母語としない人々に対して、どのような支援・指導ができるのかを講義や演習、実習を通して学ぶことができます。学校教育と日本語教育の両方の視点から「日本語支援」について理解を深めることができ、日本語を新たな視点で考える授業では、無意識のうちに使い分けている語の意味や日本語の特徴・規則について多くの気づきを得ています。愛知県は日本語指導が必要な児童生徒が非常に多い県であり、今後も多様化が進む社会で「日本語支援」ができる教員の必要性を実感しています。日本語支援の専門性を生かし、「ことば」の力で子どもたちの可能性を広げていきたいです。

■ 私の時間割 (2年生前期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限	初等家庭科教育内容A	国語学概説Ⅱ	初等国語科教育法B	初等体育科教育内容A	ポルトガル語Ⅱ
2時限	初等英語科教育内容A	教育システム論	初等生活科教育法A		漢文学A
3時限	言語学研究	スポーツⅡ	年少者日本語教育実習	書道演習Ⅱ	中国文学史
4時限		英語コミュニケーションⅡ	この時間を使って「学校体験活動！」の事前指導やガイダンスを行うことがあります。		国文学演習AⅡ
5時限					

実習: 学校体験活動入門